



ニュースレター

(第6号) 2004年9月1日発行

第2回 不登校・高校中退者のための進路相談会

専門学校・大学中退者、社会人も歓迎。大学3年編入指導もします。

個性的な生き方が求められる時代。

通信制から海外留学まで、多くの進路があります。

また「勉強は好きじゃないけど、バイトならやりたい」という若者のために文部科学省は日本版デュアルシステム(アルバイト等の単位認定)もすすめています。この機会に「自分なりのレール」を探してみませんか? 専門学校、大学編入、大学中退者、社会人のための相談も歓迎です。

(記)

日 時：平成16年9月15日（水）午前10時～午後12時30分

会 場：教育センター分館 南棟2階 中講義室

参加費：無 料（事前申し込みの必要はありません）

内 容：10:00～10:30 基調講演「今、若者に向かい合う中で」

講師 小草栄喜（元高知東高等学校教頭）

10:30～11:30 各学校、団体よりメッセージ

11:30～12:30 個別相談

（大検指導、留学相談、通信制単位制高校、高等専修学校、中途入学・編入可能な学校、フリースクールなど）

参加予定団体：TCC高等学院・親の会・高知留学センター・高知高等学院

フリースクールウイン・セルボーン高等外語学校 他

生涯学習アニメータ月例会の報告 =県家庭教育センターを中心に活発化=

廣瀬典民先生を座長に開設された生涯学習アニメーター月例会が、活発化してきた。毎月第3水曜日の午後2時～3時30分まで教育センター分館で開催。宿毛をはじめ県下各地から県教育委員会の委嘱した家庭教育センターを中心に20名ほどの方が集まり指導体験、情報を交換しています。

参加者は家庭教育センターのほか、学校の先生方のボランティアグループ「21世紀ふるさとクラブ」、県警の青少年指導員、応用心理カウンセラーなどはか一般家庭の主婦も参加しています。

7月には、一般の主婦で実際お子さんが不登校になられた経験を持つ楠永敏子さんと生涯学習センターで活躍されている横川由加里さんの講演・発表でした。

今までなく、一般の方からの参加もあり、皆さん話し合える全員参加のような良い会になりました。楠永さんのお話では、何人かの参加者から発言をいただき、楠永さんからのコメントをいただいていました。

横川さんは、今サポーターとしての活動を皆さんに紹介し、生涯学習センターとは、何か、またこれからどう活躍したらいいのかを發言していました。

「日常生活における親子関係の問題点」

講師 楠永 敏子さん（主婦）

現在23歳になった長男が当時中学生で不登校になりその時の自分自身の心の状態を振り返るとそれは考えられない状況だった。

日々の生活の中で、なり振り構わず何かをする気力もなく、完全にうつ状態となり、普段何気なしに、見る景色や太陽の輝きや美しい青空でさえ、そのころの自分にとれば、心に突き刺さる思いがしたつらい日々だった。

わが子二人が不登校になったことで、自分自身の幼少時代からの親子関係に問題点があったのではないかと気づき始め、そのころからわが子に対する接し方も変わってきたように思える。



現在は老父に対しても以前とは違った感情で接することができるようになり、わが子とも自然に会話ができるようになりました。今は、笑顔の日々を送れる様になりました。

事例発表「私はこんな事しています。」

発表者 横川 由加里さん（家庭教育センター）

学校ボランティアを希望する方、朝、担当の先生がまだ来ない時間帯を「子どもたちとのふれあい」とし、「不審者に対する安全策」としても、「その場に大人が居る」ということは、意味がある事かも知れません。

始めに、私は小学校で「石の町」のストリーテリングでお話の世界へいざないます。気分が楽になったところでは絵本・紙芝居の読み聞かせをします。子どもたちは、目をきらきらさせ息もつかない感じでついてきます。

生涯学習アニメータ月例会（平成16年度前半のまとめ）

4月27日 相談活動の組織化と例会の設置について

（廣瀬典民先生 27名参加）

5月25日 不登校・高校中退生等に対する県の対応策を中心に

（松本文彦先生 12名参加）

6月16日 中学浪人・高校中退者等進路相談

（小草栄喜先生・廣瀬典民先生 18名参加）

7月21日 日常生活における親子関係の問題点

（楠永綾子氏・横川由加里氏 19名参加）

生涯学習アニメータ9月例会のお知らせ テーマ

「子どもの生活習慣（学び、学習、マナー等）とその改善策」

問題提起プレゼンテータ：

森田道子（高知市在住、高知県家庭教育センター）

日 時：9月15日（水）午後2時～3時30分まで

場 所：教育センター分館 南棟2階 中講義室

多数の参加をお待ちしています。

「電話進路相談」

困ったり、悩んだら、電話又はメールください。

電 話：088(833)0023

（平日9:00～17:00 土曜9:00～正午）

メ 邮：info@kolec.jp

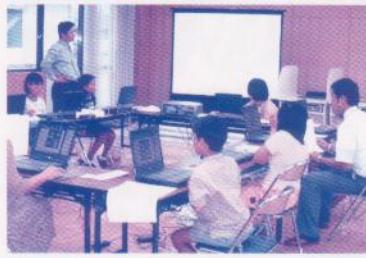
電話による進路相談を受け付けます。

メール相談も歓迎。



しばてんカレッジ 夏休み特別企画の報告

17日ちびっこパソコン教室 参加者：9名



みんな名刺を作るのは初めてでした。あちこちから「先生！先生！」と質問の嵐。「先生ここどうやるがあ？」「こうやって書きたいけどどうしたらえい？」などと先生たちに聞いて、自分のオリジナル名刺を一生懸命作り上げていました。学習後には、早速名刺の交換をしていました。

23日桂浜水族館 参加者：28名



当日は、大雨のため、親子での参加が増えました。片手に傘、もう片手に鉛筆と大変でしたが、みんなとても熱心に飼育員さんの話を聞き、質問もしていました。雨の為に制限された部分もありましたが、水族館内やバックヤードの案内が充実しており、特別な勉強ができました。

24日桂浜水族館 参加者：親子20組



19日が台風の影響により24日に変更になったにも拘らずみなさん参加してくれました。当日は天気も良く、イルカやペンギンにも触れ合え貴重な体験が出来たことと思います。お子さんのみならず、保護者までが熱心に飼育員さんに質問し、まさに親子参加の体験学習でした。

参加者から作文が送られてきました。

春野東小学校 2年 川島 まさ

きょうかつらはま水ぞくかんでうみにすむいきものの、べんきょうをしました。クラゲとかペンギンやイルカをさわるとくらげもペンギンもイルカもきもちよかったです。クラゲは、プロブヨしていてゼリーみたいでした。イルカは、おもったよりかたかったです。

ペンギンは、おとなしいからすぐにさされました。ふわふわしてふとんみたいでした。カワウソは、人とかやけんにころされ、もうにほんにはいないとはなっていたのかわいそうでした。人にころしたらダメっていいたいです。またいきたいです。

葉山小学校 1年 森本 ゆい

きょうかつらはますいぞくかんでうみにすんでるいきもののべんきょうをいっぱいしました。

くらげはぶよぶよしていました。いるかとあくしゅをした。かたかったよ。

べんぎんはうさぎみたいにふわふわしてきもちよかったです。

かわうそはやけんにころされてすごくかわいそうだったよ。

すごくべんきょうになりました。

ありがとうございました。

第1回高知県早期英語研究会(8月25日)開催 那須恒夫教授(高知大)を座長に年3回開催を予定

「英語が使える日本人の育成のための戦略構想（平成14年7月発表）」を受け文部科学省が包括的な英語教育政策を発表し、高知県でも小学校での英語教育が本格化した。従来、いわゆる「おけいこ教室」として早期英語は推進されてきたが、検討すべき問題点はあまりにも多い。第1回の研究会では、基本情報とともに総論的にこうした問題点を提示。カナダのフランス語地区で実施されて効果をあげているImmersion方式などの新しいコミュニケーション能力教育法なども紹介された。

今後、那須教授を座長に年に3回ほど研究会を開催して、ジョン万次郎を生んだ高知らしい効果的かつ実用的な早期英語教育の実現を目指してゆく。



「高知県の小学校英語教育の現状」アンケート調査実施

回答64校中49校で英語関連教育実施。

高知県早期英語教育研究会（座長：高知大学教育学部那須恒夫教授）の足を機会に、県下255校にアンケートを配布。うち64校より英語関連教育の現状を報告いただきました。ご協力ありがとうございました。

「アンケートのまとめ」は、那須教授のコメントを添えて、回答をお寄せいただきました小学校には近く郵送いたします。当センターホームページにて結果の公開を予定しております。ご覧下さい。

参加人数：14名

講 師：那須 恒夫

講 演：早期英語の傾向と問題点

講演内容：早期英語教育の背景、小学校の英語教育過程の現状（小学校学習指導要領の総合的な学習の時間における外国語会話と英会話学習）、今後の課題、質疑応答

後 援：高知県教育委員会

8月18日子育て支援の会に行きました。(コーディネーター報告 秋澤志名)

土佐山田町の中央東保健・福祉合同庁舎で行われた「子育て支援者・集いの広場・交流会」に参加してきました。

まずは、南国市のタケダミカさん代表の「スイミー」と佐岡地区的カドワキさん代表「佐岡おとうちゃん会」が、実践・近況報告をして下さいました。南国市では、育児サークルが「スイミー」しかない問題と、代表のタケダさんも転勤族で後継者の問題も出ているようでした。「佐岡おとうちゃん会」は、地区のおとうちゃんがPTAとは別に立ち上げ、昔、自分達が自然や地域のふれあいで学んだ事を今の子供たちに伝える活動をしているそうです。

「子育ては親育ち」と題して、高知市の子育て支援センター「あい」の相談員・松田絹枝さんが講演。（こすずめの冒險）の朗読を聞いて、絵本の大切さを再認識しました。松田さんは、私たちが理解できるように実践も交えお話ししてくださいました。『子育ては、らぐびーです。』『ら』は、楽しい。『ぐ』は、苦しい。『び』は、美しい。という言葉と、子育てはいつ終わるんですか?の問い合わせに『子育ては、一生です。お祖母ちゃんになったら孫育てについて、子育てするろう?』との言葉が大変印象深かったです。

とてもいい経験になりました。

平成16年度 秋のKOLEC行事予定

参加申込み、問合せはNPO高知県生涯学習支援センター（KOLEC）まで

高知発、21世紀の食を求めて（第1期 後半）

日 時：下記の金曜日 午後6時30分～午後8時30分

場 所：万田（株）高知支店 高知市本町1-1-3 朝日生命ビル9階
(堀詰電停北側 1階に「眼鏡の丸善」のあるビルです)

受講料：1回 1,000円（資料代含む）

回数券（5回分）4,000円（資料代含む）



月・日	講義テーマ	講 師
9月 3日(金)	南国土佐酒はなぜおいしい？（試飲付＝飲んだら乗るな）	高知県工業技術センター 上 東 治 彦
9月10日(金)	秋が来た！毒茸？松茸！アガリクス！ヤマブシタケ！鼻茸！	高知県森林技術センター 今 西 隆 男
9月17日(金)	食物の比較人類学	元早稲田大学 教授 西 江 雅 之
9月24日(金)	海洋深層水の真相 深層水は表層水や食塩水より美味しいのか	高知大学 農学部 教授 伊 藤 慶 明
10月 1日(金)	神祭りじゃ！「おせ（大人）」から「こびんす（子ども）」までの皿鉢料理！	土佐史研究家 谷 是
10月 8日(金)	漂流者（万次郎）と科学者（寺田寅彦）の味覚の差	日米学院 学院長 永 國 淳 哉

しばてん文庫「著者を囲む会」岩崎義郎さんに聞く

土佐の本を、郷土の著者自身が語る「しばてん文庫＝著者を囲む会」。

第1回は、土佐観光ガイドボランティア協会で活躍されています岩崎義郎氏が、その2つの労作について、取材の裏話も含めて、語ってくれます。



日 時：平成16年9月18日（土）午前10時より
会 場：高知県教育センター分館南棟2階 中講義室
(高知市大原町132番地)
参加費：無料（事前申込み不用）

著 書
「土佐人の銅像を歩く—龍馬・慎太郎から万次郎へ」
(リーブル出版)
「一豊の妻・見性院 出自の謎」(リーブル出版)

豪州クインズランド州教育省小中高生のためのホームステイ国際交流

講師：ウッドフォード州立学校国際交流担当教諭 Ms.Olive Jones

ホームステイを中心とした留学（休暇中、短期、長期など）を計画している学校、市町村国際交流担当者だけでなく留学希望者本人や保護者の方々にも是非聞いていただきたい講演です。「安全、安心、安価」の3つの「安」をキーワードに、具体的なプログラムを提示して話していただきます。



内 容：高幡地区中学生と交流10年の経験

効果的なホームステイ（英語力、習慣など）

教育的な交流プログラム（学校、週末など）

事前活動（教育的な資金集め案ほか）



日 時：平成16年9月24日（金）午後2時～3時30分

会 場：高知県教育センター分館南棟2階 中講義室

(高知市大原町132番地)

参加費：無料（事前に電話、ファックスなどで参加人数をお知らせください）

世界から見た四国遍路

(企画案交渉中。次号で正式発表します。
ご期待ください)

「お四国まわり」。この私どもの風土に長く育まれてきた庶民宗教文化を、世界的な見地でアカデミックに検討したみたら何が見えてくるだろう。こんな壮大な試みに、愛媛大学が三年間も、取り組んできました。

この愛媛大学の公開講座「四国遍路と世界の巡礼」プログラムの後、高知市内でも「遍路研究の集い」をお願いいたしました。

三年間にわたるシンポジウムのまとめ役の内田九州男教授(愛媛大学法文学科)、その研究室で“四国遍路”をテーマに修士論文を完成させたナタリー・クワメさん(フランス国籍)。善根宿や道標石で知られる真念の研究でお馴染みの喜代吉榮徳氏(早稲田大学講師・新浜市東田大師堂住職)。それに愛媛大学での今秋のシンポジウムの基調講演のためにフランスから来日します巡礼研究家ジャン・シェリニ氏にも、日本の印象など語ってもらいたいと計画中です。ご期待ください。

関連著書

「私と四国遍路研究」

ナタリー・クワメ(フランス女性で愛媛大学で修士取得)

「江戸時代の四国遍路—あたらしく見えてきたこと—装束・心願・身分ー」

内田九州男(愛媛大学 法文学科 教授)

「四国遍路道の父・真念について」

喜代吉榮徳(早稲田大学 講師・真言宗東田大師堂住職)

「日本訪問的印象」

ジャン・シェリニ(仏マルセユ生・文学博士・巡礼研究家)

日 時：平成16年11月2日(火)午後1時より

会 場：教育センター分館(高知市大原町132番地)

南棟1階 大講義室

参加費：無料(電話・ファックス・またはメールで事前申込みをお願いします)

生涯学習メモ「日本の常識、世界の非常識」

センター長 永國淳哉

- 今年の夏も、県内各地の中学生や高校生たちのホームステイプログラムのコーディネーターとして、オーストラリアのクイーンズランド州で過ごしてきた。
- 小学生の親子も参加した生涯学習プログラムもあり、「日本の常識」が、まったく通じなかった点を挙げておこう。
- 「塾」は英語でも「Juku」。「学校外で、組織的に学校教科を補講している民間学校」なんて誰も理解してくれない。「子どもも喜んで、夜の九時過ぎまで勉強に行っている」と日本の親。「子どもを、そこまで洗脳して、本当に日本の人たちは平気なのか。責任を感じていないのか」とオーストラリア人。
- 「スポーツデー」があった。生徒達は顔をコミカルにメークリップして、自分の参加したい競技にのみ参加。「日本の運動会は、軍隊教練みたい」とは、ALTで日本の学校に来ていた教師の弁。「修学旅行も軍隊訓練から始まったそうよ」と教えてくれた。
- 公立の中高では、放課後の部活動もない。放課後は、地域(コミュニティ)の「異年令の人々との交流時間」とのことである。
- 「勉強好きのアカデミックな子どもは30%。政府は“職の教育”に力を入れて、高校1年生から受け入れるTAFE(専門学校)で250種類以上の職業訓練コースを用意している」
- 「生涯学習の第1歩は、16歳になるまでに、将来の職業を選択されること。好きな職業に就きたいという意欲さえ出してくれれば、自分から学ぶ態度が出てくる」

○高校2年～3年では、登校しなければならないのは週に3日～4日。自由登校日には、アルバイトをし、職場教育を受けることをすすめている。

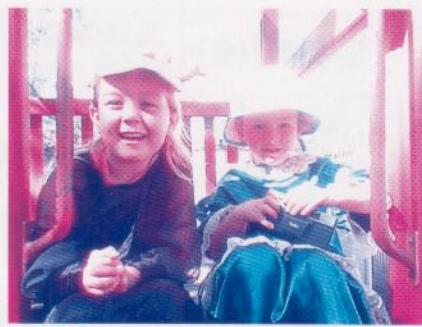
○中学校や高校でも50分授業を2コマ併せて、大学のように90分～100分授業としている。ねらいは「教えない。学ばせる」という生涯学習態度を身に付けさせるため。

○21世紀の社会では、教わったことも技術も、3年で陳腐化してしまう。「生涯学習する態度がなければ、生きていけない。」

○「不登校」という言葉もない。「義務教育だから、学校に来なければ、警察が連行して、保護者が拒否すれば逮捕する」

○「朝起きない?カーテンなんかつけるからよ。遮光カーテンは絶対ダメ。日の出と共に、子どもは起きるようにできているの。そしたら夜九時には眠たくなるの」

○「丸々太って元気のない児童」どこも食生活指導が最大の关心事でした。



発行/2004年9月1日

NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)

〒780-8031

高知市大原町132番地(教育センター分館内)

電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023

電子メール info@kolec.jp

URL http://www.kolec.jp

発行人/理事長 山本晉平

編集/NPO KOLEC編集室 印刷/中島出版印刷

